

## 第2回馬村観光振興のための財源確保検討委員会

日時：平成30年7月24日（火）午後1時～

会場：白馬村役場2階 201/202 会議室

### 下村会長

今日の議論は、資料1を用いて前回の議論を少し振り返り、その後資料3により財源として何に使っていくのか、どういうものに財源が必要なのかをもう一度確認したうえで、主に基金に関して財源というよりも基金化のイメージについて議論を進めたいと思います。前回の議論の振り返りを事務局より説明をお願いします。

### 事務局藤本副村長

資料1に関しては前回の委員会における主な議論ということで、各委員の意見・発言を抜粋したものです。テーマごとに分けてあります。（以下、資料1を説明。）なお、議事次第にはありませんが、第1回から第2回までの間に、村内の宿泊施設の方々から、検討委員会の会長宛に要望書を頂き、事務局で預かりとしていましたが本日会長に渡し、そのコピーを各委員に今配布しています。

### 下村会長

資料1で丁寧に前回の議論を振り返っています。皆様の発言で趣旨が違うとか訂正されたいものがありますか。

### 杉山委員

資料1の説明の中で、下村先生の【財源確保の方法について】というところで、「使途というか使い道が基本的に重要で、何のためにお金が必要かということがある程度明確でないと、設計や考えができないのではないか。」というご指摘を頂き、私もこのとおりだと思っています。この後事務局から商工会に出された意見について説明があると思いますが、これに関連しているので発言させて頂きました。

### 下村会長

今の要望書については、要望事項として具体的には2点書かれています。その点に関して事務局に説明をお願いしたいと思います。

### 事務局藤本副村長

お手元にお配りした要望書の裏面に要望事項が書かれています。時間の関係もあり、裏面の要望事項のみ読み上げと云う形で説明させて頂きます。

要望事項その1 財源確保の検討は一旦立ち止まり、白馬村はどんな観光立村像を目指すのか向かう先を明確にしてそこへ行くための具体的な目標を立て、さらに詳細に具体的な事業とその準備を決めることが一番最初に行うことであると考えます。具体的な目標と使途を明確にすること。

その2 税金の創設を議論するにはあまりにも時間が短く、軽視していると思われます。検討項目

は、住民・事業者の同意をなくして実行不可能な内容です。以下の点を十分留意して慎重審議を重ねること。以下の点として、消費税10%への引き上げ以後の動向。実際の納税者であるお客様の宿泊税に対する考え方。白馬村単独での導入に関するリスク。宿泊の形態が昔と違い多岐にわたること。税の説明、徴収、申告、納付に当たる労働力不足等の問題。宿の持ち出しになる等の問題。以上、これを踏まえて慎重に検討して頂くことを要望いたします。

という要望事項です。

#### 下村会長

要望書の1点目については少し誤解もあるのではないのでしょうか。前回は検討事項の1つとして触れていますが、一昨年に出示された観光地経営計画の中で杉山委員からも紹介がありました、平成13年に検討されたものを踏まえ、観光地経営計画を計画し、それを実現するための財源が必要ということで、この検討委員会ができました。そして資料3に示すように「どんなところにお金を使っていくのか」、経営計画が出た後、観光客へのアンケートを行い、要望の優先順位も踏まえ「どこから進めて行けば良いのか」ということをまとめており、それが資料3になります。この点に関して前回議論が少し足りなかったこともあると思うので、今回はこれについて皆様からご意見を頂きたいので、事務局と相談の上、ここをもう少し振り返ることにさせて頂きました。

2点目の「時期が早すぎる、拙速ではいけない」ということについては、この委員会で議論するのはなかなか難しいので、この要望書を受けるような形で事務局の方で再度スケジュールを検討する必要があると思います。委員会の中では拙速なつもりはないにしても、住民との議論を繰り返しながら、収めるところに収めていかないと実現は難しくなる可能性があり、スケジュールに関してはもう一度事務局で検討頂きたいと思います。

本日は、資料1と杉山委員の意見それから要望書を踏まえて、議論を進めて参りたいと思います。

#### 杉山委員

商工会の会員から私宛に頂いた意見書について説明します。

商工会も6月29日に第1回の理事会を開き、藤本副村長から観光振興に必要な財源確保の話頂き、その後7月10日に総務部でこの件について協議しました。税という重いテーマで、商工会会員にも直接影響するものなので、どのように会員から意見を求めるかということ認識していたが、その過程で会員より意見書が提出されました。村長宛に、観光振興に必要な財源確保の重要性は認識しつつも、現行の観光行政を検証し、その用途も併せて検討頂きたいという要望書を提出させて頂きました。それが経過です。

要望書の内容については、4ページに亘り詳細に財源確保の検討以前に行うべきことが何かということ述べていると理解しています。要約すれば次の4点になると思います。

- ① 平成13年度の「21世紀 白馬村観光の飛躍に向けて」を策定してからの観光局の立上げから現在までの観光局や観光農政課の取組状況の検証が必要である。
- ② 観光関係産業者からの十分な意見聴取がされていたか。
- ③ 単なる観光振興ではなく、他産業との連携、農業と観光が成り立つ仕組み作りにより村内経済の循環を図る6次産業の創設。
- ④ 白馬村全域が観光資源なら観光整備費用は莫大となる恐れがあり、どの事業にどれだけ費用を掛けるのか。その効果はどうなるのかを示して頂きたい。財源の対象事業や経費及び費用対効果の明示も頂きたい。

私としても、平成13年の「21世紀 白馬村観光の飛躍に向けて」の策定から続いている中で、その頃と比べて良くなっているのか悪くなっているのかも含め、そういうことも検証しないとまずいと思っています。多少前後するかもしれませんが、検討頂きたいと思います。

#### 下村会長

杉山委員も良くご存知だと思いますが、観光地経営計画を立てる時に今の議論はかなり深くやっています。観光地経営計画をまとめる際には委員会とワーキンググループを設置し、ワーキンググループの中にはかなり若い方も含めてメンバーに入って頂き、観光地としての現状や他産業との連携の話とか色々議論を頂いた上で観光地経営計画を立てさせて頂いたはずですが、そこへ立ち戻れと言う意見ですか。

#### 杉山委員

今後の取組み①②のこういうものをやるからこうだと言うが、具体的に優先順位があり、いつまでにどうやってというところに繋がっていくと思います。その辺りが上手く伝わらないので、初めから財源ありきでは、という話になり一番基本的なところが欠けていて、事業者・受益者の皆さんに、納得をして頂き気持ちよく支払っていただく制度でないと上手くいかないと思う。そういうことも含めてもう一度観光局のあり方とか検討していかないと上手くいかないと思います。

#### 下村会長

観光地経営計画、或いは「21世紀 白馬村観光の飛躍に向けて」について、住民の方への浸透が十分ではないという点があるので、それは別途頑張ってもらおうということで、ここではそういうものを前提として、それを進めるために財源の問題が先立つので、その可能性がどうかというところを議論して頂きたいと思います。そして、次の議題としては何に使うかということで、もう一度1回目の会議の議論を深めたいと思います。ご要望は分かりますが、財源を検討する前提として必要な手順は踏んでいると思います。住民に対しての浸透が希薄なところと、スケジュールの話もあったので、気持ち良く皆さんに理解して頂くための状況づくりを事務局の方でお願いしたいと思います。

何に使うかということ、財源は必ずしも税金だけではなく、多様な財源の形があるということについては、今日の二つ目、三つ目の議題として議論して頂くのが良いと思います。その中で、お気づきの点や気になる点を言って頂き、議論頂きたいと思います。議論を尽くすということは非常に重要だと考えます。

一つ目は資料3と参考資料を使い、「どういうところに新たな財源を使っていこうとしているのか、使うべきなのか」ということについて、議論したいので事務局から説明をお願いします。

#### 事務局藤本副村長

(参考資料の1、2、資料3、参考資料3を説明。)

#### 下村会長

これからどういうところにお金を使っていくと良いか、観光地経営計画とそれに則った観光客へのアンケートを基に事務局で整理して、事業費としてもこれ位掛かるという概算を出したものです。

商工会への要望書にもあったとおり、これを全部やると膨大な費用となります。村の財源や国の補

助で進めなければいけない基盤整備等の部分と、もう少し小回りの利く財源として、自主財源で進めていった方が良いものがあり、これらを進めなければいけない時に、色々な財源の可能性を持つということで、自主的財源として設定をする必要があるというのが議論の発端だと思います。その辺りについては小磯委員が豊富な経験をお持ちですので補足をお願いします。

### 小磯副会長

基本的には白馬村が観光地としての魅力を高め、より良い財源を確保しながら次世代につないでいきたいという思いそのものは全く変わらないと思います。どういう形で議論し、どう進めていけば良いのかというところが重要です。

論点として、具体的にどういう事業を進めていけば良いのか、その検証がないのではないのか。既に観光地経営計画の中で、かなり議論されているという経過の中で資料3の紹介がありました。

私自身、これまで他の地域、特に北海道で新しい財源づくりに向けてどのようにしていくかという過程で、同じような議論がありました。具体的にどういう事業で新しい財源を作り上げていこうかという議論を進めていく中で、やはり、住民の皆さんがこういうことに向かっていく、という共有感を得ていくプロセスはすごく大事だと思いました。

杉山委員からも紹介のあった地元の動き、手順を踏むということで会長からもお話がありましたが、手順の踏み方は難しく、どこまで住民の皆様を含めて共有感がしっかり得られているのか、そこを改めてもう一度しっかり丁寧に確認しながら進めていくというのが大事だと思います。

観光地経営計画というのは、これから必要な観光地経営に向けての戦略で、それぞれの視点の中で事業を抽出したもののうち、今後少し掘り下げて検討していく視点が必要だと思います。

それぞれの事業について、国に直接やってもらった方が良い、或いは国や県の補助でできるものについての整理が必要です。新たな財源で取り組もうとしている事業については、補助金のメニューにも無く、やはり自主財源という形でやらなければいけません。白馬村の今の状況からいくと「これだけは絶対やりたい」というものを、整理された事業の中から、どういうところを重点的に、例えば10年という時間を区切れば、「これはやらないとダメだ」というような搾り出しの議論が大事です。そのための作業は、観光地経営計画で議論された経過を踏まえ、その成果をうまく活用しながら絞り出しの議論を進めていく必要があります。それをこの検討委員会の中でどういう形で位置付け、どういう作業を続けていくのかが、これからの議論だと思います。そういう形で進めることにより、どういう財源が必要なのか、その財源について、こういう手法を取ればここまでの事業はできる。というような形で、どういう財源が良いかという議論にも繋がっていくという気がします。

### 杉山委員

小磯先生のお話のとおり、何をいつまでにどうするかということがなく、今後の方向性だけで税を取るというのは、ちょっと乱暴かなという意識が強いと感じます。

### 高梨委員

議論を聞き、杉山委員の言いたいことは何となく分かりますが、観光地経営計画策定については私も委員でしたので、しっかりとしたものを作ったつもりです。観光行政というか、端的に言うと観光局がちゃんと機能しているのかという話を一回しっかりした方が良いのかという意味もあるのではないかと思います。

## 杉山委員

平成 13 年から継続している話の中で、前の村長の時に見直しが一回入ったと思いますが、残念ながら観光地経営計画の中では議論がなかったように思います。「21 世紀 白馬村観光の飛躍に向けて」は、将来に向けてあれだけ立派に作った資料が今どようになって、どのように進んでいるのかということを検証しないと、なかなか皆さんにご納得いただけないのではないかと思います。議論が前後して申し訳ないと思いますが、そうしないと皆さん納得できないかもしれないということで発言をしました。合意を取りながら進めていかないと、せっかくのものがダメになるのではないかと思います。

## 高梨委員

観光局の副代表も兼ねているので立場的に言いにくいですが、観光局も頑張っていると思います。しかし、できていることと、できていないことがあると思います。ある時に何でこんなにできないのだろうと思い、海外の観光局が財源をどうしているかということと、何をやっているのかということと比較してみようと思い何社かに行きました。活動目標は大体似たようなものですが、出来栄えが全然違いました。それは何故だろうと、資料として纏めたものがあります。私は元々経営コンサルタントを 10 年以上やっていたので、収支から全部追いかけていき、費用を基に見ていくと何をやっているのか大体分かってきます。八方が姉妹提携しているレッヒ、FWT でお世話になったスイスのヴェルビエ、索道関係でカナダのバンフという所に行って観光局長と 1 対 1 で話をさせて頂き、財務の資料を全部開示してもらい、どう違うか分析してみました。財源のところは税金の話もちょっと出てきますが、自助努力が足りないという結論は勿論一つにはありますが、比較してみると我々がどちらに進むべきなのかということが検証できると思いました。観光局が置かれているところで、今我々が議論しているものと直結するような話ができるのではと思います。次回 10 分くらい時間を頂き、観光局がどうなっているのかという話をさせて頂きたいと思います。杉山委員のお話に対して分かり易くご説明できると思います。それと既存の観光地経営計画を併せて思考していけば、足元を見ながら前に進むということ、それと我々がどちらに進むべきなのかということ国内の比較だけではなく、海外で観光行政が進んでいる所はどうしているかという比較も併せてできると思います。そんな議論を次回やらせて頂きたいと思います。

## 下村会長

次回かどの段階になるか分かりませんが、この次に基金化したものをどこが運用するのかという話の中で、それが観光局なのかそうではないのかということも考えなくてはいけないと思います。或いは、役場が持っている予算と観光局が持っている予算、それと自主的な財源の振り分けの問題等について、当事者として分析されているという事であれば、意見を伺うことはとても参考になると思いますので、スケジュールを事務局と相談して頂きたいと思います。

## ケビン委員

参考資料 1 にある白馬村の将来の人口で 2015 年に、8,929 人で、2025 年になると 20%減となる資料で、高齢者（高齢化率）の人口は 29%だと思うが、2040 年に 43.8%となります。人口の半分近くは高齢者と子どもで、働いていない方は 50%位となります。そうすると、村の支出負担が大きくなる。人口が大幅に減ると、税金も同じように減ると思うので、新しい事業よりも現状を維持する必要がある

と思う。新しい事業をする以前に、現在のレベルを維持する必要があると考えます。

#### 下村会長

その辺りは、村全体の総合計画のレベルのような気がします。観光地経営計画は域外との交流をベースに白馬村のあり方を検討したのですが、もう少し村そのものの現状を総合的にどう打開するかという検討はされているのかという話ではないでしょうか。

#### ケビン委員

ポイントは現在のまま続けられないということです。大幅に予算が減ると現状維持ができません。その状態になってきているから新しい方針を見つけないといけないということです。

#### 下村会長

交流というものをベースにもう少し現状を打開できないかというのが観光地経営計画だと理解しており、観光計画ではなく観光地経営計画になっています。今までは地域の人だけで維持してきた村がそれではなかなか難しくなっているから、域外の人たちと交流しながら観光地としての整備を進めていく。その中で若干定住する人も出てくるかどうか、そこまではちゃんと議論をしていないが、現在、全国各地で検討しているのは同様の流れだと思います。

やはり資金は都市に集まってしまうので、それを如何に地方に分配するかということです。かつては公共事業などで分配してきたものを、交流というか観光を通すことで都市部に集まるお金をもっと地域の方に持って来られないか。観光客や地域に来る人にちゃんと話しをすれば、彼らは「地域の現状に対してちゃんとサポートするよ」というふうになんかとも日本の社会はなっていると思います。

前回の会議でもケビン委員から外国では観光税や宿泊税が既にベースになっていて、税金だろうと何だろうと払っているという話を伺いました。今の人口規模では、村だけでは立ち行かないので、交流というものを上手に使い、より明るい暮らし方ができるのではないかという考え方が観光地経営計画のベースだと理解しています。それを進める上で、現在の村の財政だけでは厳しく、観光客の質も変わってきて、しっかり説明すれば協力を頂ける社会になってきているので、そこを白馬らしく組立てることができないかということ議論することがこの委員会の発端になっていると理解しています。

どうやって税金を取るのかという議論をするつもりはないですし、そういうニュアンスで集まっているわけではないと理解しています。

#### 小磯副会長

補足すれば、検討委員会の議論の意味というのは、白馬村の将来に向けてどういう地域づくりをしていくのかということです。ケビン委員から指摘があったのは、人口がどんどん減っていけばそれを支える自治体の財政も緊縮していき、その中で新しく使える財源はそんなに無いのではないかということです。地域の経済というのは常に生きているもので、白馬村は仮に人口が減ったとしても、どのように地域の資源を生かしてそこに暮らしている人が働き、働く産業というものを活性化させていかなければならないと思います。最低限、白馬村の方向性に沿った投資というものは常に必要で、インバウンドという外からの観光客が多く消費をもたらします。その動きをしっかり受け止め、それをこれからの白馬村の大きな産業戦略にしていくことが大事です。そのためには必要な投資も必ず出てきます。人口が減ったから、地域が小さくなったからといって、新規の投資が全く必要ないということはない

り得ません。行政が必要とする財源は限られたものになる中で、新しい財源でこれからの白馬村づくりの新しい取組みをしていこうという議論の延長線上に立ち、そのための方法論を今議論しているということだと思います。

基本的なところですが、その認識が共有されなければいけません。役場が困っているから新しい財源づくりでこんな議論しているのではないかと思われているとしたら、それは違うと思います。そういう思いで議論するなら議論する意味がないのではないかと思います。より良き観光地として白馬村がどうやって生き延びていくのか、そのために投資が必要であれば、新たな財源をどういう形で確保していけば良いのか、そういった議論で進めていって欲しいと思います。

### 中村委員

今が過渡期だと思っています。住民も減り、お客さんも減っていきます。明確ではないですが、白馬村は冬の海外のお客さんが増えましたが、国内のお客さんは激減しています。本来であれば私たちの事業はものすごく苦しい状況で、どうやって生きていけば良いのか、喫緊の課題になっています。来るお客さんが減れば私たち働き手も少なくなっていくと思います。

財源ということになると「税金」となり「取られる」という印象があります。今の観光行政を、もう一回シンプルに効率的に作り直さなければいけない時期ではないかと思っています。いくつもお金を掛けるのではなく、色々なところに使っているものをひとつに集約したらいかがでしょうか。人材に関して今現在白馬村にいる人たちにも有能な方がいて、それぞれスキー場や宿泊業、観光協会・観光局等でバラバラに動いています。何かしら新しいものを作り上げ、能力ある人たちが一つに結集して効率的に集客していく仕組みづくりをしなければいけない時期に来ていると思います。

新しい財源ということになると、誰がそれを使うのかということと、誰がリーダーシップを取って白馬村の将来に向け、効果的な集客等に使ってくれるのかということが曖昧なので不安です。お金だけあってもダメで、巧くそれが機能する仕組みを作らないとあまり効果がないと思います。

現在でも観光局があり観光協会もいくつかあり、それぞれに予算があり、それぞれに営業しています。今のものを潰すとか壊すというのはものすごいエネルギーがあるので、無理だと思います。新しい施設を作るというよりは、何か効果的な新しい仕組みを、観光財源ではなく、何か新しいものを作り上げることができれば、違った形になるのではないかと期待しています。

### 丸山委員

中村委員に僕も常々思っていることを言って頂きました。全くそのとおりで、宿泊業もどの業務もそうだと思いますが、税金というラインでいくと、色々な会費もそのラインに並びます。昔、先代たちがやっていた良い頃は、まったく苦にもならず自分たちに都合のよい組織を作って会費を集め、使うことを考えてきました。今はそれが、とてもじゃないが無視できない金額になってきています。そういうお金をどこか一本にまとめたらもっと効率が良く、もっと負担が軽くなるのではないのでしょうか。

私の立場で言うことではないですが、現在八方尾根観光協会会長職を仰せつかっており、会員から会費を頂き、観光協会の運営に使わせて頂いたり、宣伝しています。そこに観光局ができ、観光局も会員を募集し会費を募っています。八方尾根の観光協会会長という立場で観光局の常任理事で、観光局を考えればそこに一極集中した方が良いのではないかと思います。観光局も協会も外部から色々な話をもらって乗っかってしまい、適格なりターンがないのに毎年大変な労力を使ってやっています。それを観光局に集中してやっていく事がよいと考えます。

役場の職員は、今聴きに來られている方々、宿泊業・飲食業も色々な観光に携わっている方の意見をまとめるのは難しいとは思いますが、観光局で有効な何かを考え、無いものは借りてくるとか、ある程度外部の力を借りないといけないが、自分たちで創設できないでしょうか。それによって人も育つと考えます。

色々なイベントもそうですが、やっている我々が面白くなければお客さんも面白くないと思います。現在はありがたいことに若い人も大勢いるので、意見を聞き一緒にやっていたらと思います。

情報発信については、商工会でも観光局でも観光協会でも役場でも情報を出しています。僕自身も情報が多くて良くわからない状況です。大変な作業が伴うことだとは思いますが、観光局でやろうとしている予約システム等、一本化ができれば宿泊税等も徴収できるのではないかと思います。

観光局に入らないと商売できないというシステムがあれば良いと思います。今は観光協会にも入ってもらって利点を出していますが、それ以上に観光局に入らないと色々なものが機能しないというのが前面に打ち出せば良いと思います。今の話とちょっと違いますが、そこからの財源確保でないと、我々の理想の使い方ができないような気がします。

### 高梨委員

お二人の話に通じますが、丸山委員は観光局の執行役員というか常任で、色々話をさせて頂いています。観光局自体も中身を見直そうとしています。観光局と常設の観光協会の棲み分けができていいのか、ちょっと怪しい所がありますので、そこを見直そうとしています。

プロモーションボードの代表という立場で来ていますが、観光局と動き方・考え方がすごく似ています。索道を軸とし、いずれは宿泊も交通も一緒にやればというつもりで作りましたので、観光局と構成要素は一緒です。ただ、守備範囲が HAKUBA VALLEY ということで、白馬村とは違います。検討はしていて、約束はできませんが、できそうだという感触を少しずつ感じています。棲み分けをキッチリやるようにやっていて、もう少しお時間頂ければと思います。

### 杉山委員

観光局と観光課というのが、どういう役割で、何を分けてやっているのか、明確でないのが気になります。

### 下村会長

資料3は今の段階では羅列してありますが、事務局として今後これは村の財源でとか、これは観光局、観光協会等、新しい財源をどこが担うのかは整理して頂くことになると思います。その時に、基金をどこが管理するかという検討が必要になり、その際に全体の予算管理の問題が起こって、各々の事業の財源という観点から整理が必要になってくると思います。その時にどうしても組織をまとめなくては行けないという議論に戻るようであれば議論して頂きたいと思います。

ただ、そもそも、この委員会はそれを中心に議論する場ではなく、今ある組織構成の中で白馬に最適な財源の在り方を議論しようとする場であると思いますが、今の意見はもっと戻れということになります。財源という点から見た時に、戻った方がよいのであれば、もう少し資料が出た時に議論して頂ければと思います。観光地経営計画の時にもそのような議論が出てきたと理解しています。

既存のものを壊したり再編したり、大学も同じで組織改編はとても大変で、そこをメインに議論していると方向性も見えなくなる可能性もあります。事務局でもこれを整理していく中で、どこが担う



かというところで議論して頂ければと思うので、今日は「その辺りも必要かもしれない」ということで収めさせていただきたいと思います。

もう一つ重要なのは、税金という言葉が飛び交う中で、この委員会のテーマは必ずしもそういうことではないので、もう一回共有した方が良いということで、資料2、資料4、前回の資料3について、事務局から説明を頂きたいと思います。

#### 事務局藤本副村長

説明の前に、商工会の杉山委員から話のあった意見書のコピーを配布させて頂きました。

(資料2、4、参考資料3について説明)

#### 下村会長

資料2は支払意思額調査で、社会状況としては観光客としてもそういうことに対して協力的な土壌ができています。

また、(問2の)金額の聞き方に関してはかなり弱腰で、もう少し大きい金額を聞いても良いと思います。これは一番敏感なところで、もう少ししっかりと調査をしなければならないかもしれません。

平成26年に新たな法律ができ、国立公園や名勝等は入域料を取っても良いと法律化されてきています。そのくらい、入域するときに金銭負担が生じることに對して違和感がなくなってきています。観光客の方から頂くということになり、事業者を経て入ってくるということはあるが、ちゃんと説明することが大前提ですが、金銭負担に協力的になってきているというのが資料2です。

資料4は、基金化イメージに関する資料です。要望書はいきなり「課税」という話が出てきていますが、財源は必ずしも税金ということではなく、協力金やふるさと納税といった寄附的なものもあります。白馬で一番適切な形の徴収のあり方を考えようということ。中村委員からも前回ご指摘があったとおり、白馬は必ずしも温泉がある施設が多くはないので、入湯税が適切かどうか分かりません。また、太宰府市では駐車場で環境税を取っていますが、白馬は駐車場が無料なので取りにくいと思います。本当は駐車場で取るのが一番楽ですが、白馬はそれも難しいです。白馬ではどういう形が一番良いのかを考えなければなりません。スムーズな徴収のあり方を検討し、必要性をちゃんと説明すれば観光客はある程度の負担はして頂けると思います。それを白馬らしい形を検討したうえで取り組んでいくということ。資料4の中では、基金の用途は村、観光局、観光事業者等が協議して決定するとしていて、どうい

所が運営すれば良いか、ここは未定だという位置付けです。先程の話のように管理主体をの一本化した方が良いという議論は、次の議論になると思います。これが全体像のイメージですので、無理なことを進めようとしているということではないことを、少なくともこのメンバーには共有して頂き、村の方たちにも是非説明をして頂きたいと思います。

参考資料3は限られてはいますが、各地の色々な事例を紹介して頂いています。「協力金に関して多彩なものがあるので、そういったことを含めて、白馬ならではのあり方というのを議論して頂くと同時に、使い道として、村の財源で何をもち、観光局の財源で何をもち、この財源から何を出してという議論を進めることで、観光地としての白馬村全域が、域外の人との交流のもとで良い環境形成ができないかということ、財源の観点から議論しましょう」というのがこの委員会だと思っています。委員会の趣旨の説明に終始している気がしますが、そこはご理解頂きたいと思います。

### 杉山委員

支払意思額調査結果を説明して頂きたいと思いますが、サンプル数からしても説得力を持つものかどうか教えていただきたいと思います。

### 小磯副会長

通常のインターネット調査は、モニターの方がいて、その中で500人とか1,000人とかに質問を出してそれが返ってくるという形です。今回は、実際にこの白馬村に宿泊された方にチラシに記載したQRコードでアンケートに答える方式で、意思のある方という事なので冬季の調査ということで、少し数は少ないかもしれないが132人の回答がであったということです。一般的に、どれだけの数があればある程度正確と言えるかということについては難しく、最低100人は必要ですが、132人が多いかという決して多くはないと思います。もし支払意思というものを細部に把握したいというなら、再度こういった調査に取り組みられても良いと思います。

### 下村会長

学生に論文を書かせるときも数字は気にします。なかなかサンプルを集めるのは難しく、大体二段階に考えます。統計的に意味があるレベルと、ある程度傾向が分かるレベルの数字です。この調査の数字はある程度傾向が分かる数字と理解して頂くと良いと思います。統計的に優位かどうかはもう少しやらないといけなくて、優位検定をすればある程度優位かどうかは分かると思います。

問1に関しては、どこでやっても今は8割以上がこういった結果として出てくるので問題ないと思います。

問2に関しては少し弱腰で、これはストレートに聞いた聴き方で、バイアスが少し掛かっていて、むしろ低めに出ている可能性もあると理解しています。

富士山であれば1,000円、屋久島でも1,000円を設定していますが、これらの金額は旅行の総額に関わると言われおり、私は西表島でも数百程度の被験者数で調査していますが、その金額を徴集すると半分の人が減ってしまうという中央値が1,600円位です。沖縄辺りまで行くと旅行額もかなり高いので、割と出してくれます。500円位だと殆ど減りません。

都内の近くの森林公園でも700円位なので、設問の仕方を変えればもう少し額は上がる可能性があると思います。ちゃんと説明するとか、使途が明確であれば協力したいという人が多くなっていることは事実です。やはり説明をしっかりする必要はありますが、来た人に対して快適性・魅力ある環境が提供できると伝えることができれば、理解を頂ける可能性があるという時代になっているということ、資料からも読み取れますし理解して頂きたいと思います。

### 杉山委員

下村先生にとっては、要望書や意見書が出てきたというのは、心外というか敵視されるかもしれませんが、例えば資料3のようなものが村民に充分伝わっていないということもあり、そういう意見が後から出てくると思っています。

### 下村会長

心外とは思っていないくて、こういうこともあるだろうと思っていますし、丸山委員からも合意して

進めていくことが重要だという話がありました。スケジュールの問題については、そういったやり取りを含め、ご検討頂く必要があるということで見直しをお願いしたいと思います。

中村委員が仰るように、ちょうどいい機会、過渡期だと思います。これは白馬村だけではなく日本全国で似た傾向にあり、各地で色々な動きが出てきています。従来の一般の財源だけでは難しいので、富士山での検討等をベースに、入域料を取っていいという法律すらできています。行政が住民に対してサービスする、税金を徴収してサービスするだけでは難しい時代に差し掛かってきています。住みやすい社会を作っていこうという時に、その仕組みだけでは対応しきれなくなっている現実があり、一つの在り方として多様な財源を考えるというのは全国的に検討されている状況だと思います。

先程から「白馬らしいあり方」と申し上げているとおおり、地域ごとに形が違ってくると思うので、それを議論して頂きたいと思います。従来の形を変えようとしていることなので、すぐにご理解を得るのは難しいと思いますが、そういうことも住民の方に委員の皆様からもお伝え頂けると良いと、外から来た委員として思います。

### ケビン委員

個人的に調べた結果として、成功しているところは3つの共通点があります。

①海外に行くとパーセンテージで取っている。② 観光という名目なら、それ以外には使用しない。基金の管理は誰にでもわかる透明性。③ コミュニティマーケットプレイスを理解できる方がトップとなっている。その3点が揃うとポジティブな効果があると思います。

### 下村会長

とても大切なことだと思います。「観光のみに使う」というのは、言うは易くですが、納得して頂いて使うということだと思います。国としても「国際観光旅客税」というものを取ろうとしています。出国の際に税金を頂くというもので、観光目的として貴重な財源になるので、どう使うかという議論は慎重にされています。新しい財源なので、色々な方面からあれこれ使いたいということが出てきますが、それを如何に最適に使っていくかという議論をされており、観光客に納得してもらえる使途で使うべきという難しい議論だと思います。

### 小磯副会長

どのように使うかという部分もしっかり議論していくというのは、質の高い制度設計という意味から大事だと思います。資料4で新たな観光財源の基金化イメージというものが提示されましたが、とても大事な資料です。色々な形で財源を確保した後、白馬村でどうやって使っていくのかという仕組みのところで、一般会計の財源に注ぎ足して幅広く使うのではなく、観光目的で基金化して使うところです。使途は村、観光局、観光事業者が協議して使うというのが考えられていますが、この部分がこれから非常に大事な論点で、参考資料3の8ページで釧路市では既に基金があり、それを使っている事例で、これを参考に資料を作ったという話ですので少しお話しします。

私は釧路市の基金の制度設計にも携わり、運用に今も当たっています。実は大変難しく、基金と言っても、基本的には村の会計から補助金として支出していくわけで、問題は誰に支出するかです。釧路市阿寒の場合は、以前大改革をして、観光協会と商工会とかを全部一緒にして、「観光目的のためのまちづくり NPO 法人」を作って担い手を一本化し、そこに市から補助金として出すということで、市と、使途について NPO との協議を経て、毎年決めています。実はこれもかなり大変で、釧路市の場合は経緯

もあり、最終的には NPO のトップと市長が調停役として私と三者が年一回集まって基本的な問題をクリアしていこうということで、しっかり使うための仕組み作りをしています。

今日の会議の大きな論点の一つは、中村委員から提起された「いくら財源を確保してもそれがしっかり機能する仕組みを作らないと意味がない」という話があり、それに呼応して丸山委員から「現在の観光協会と観光局という組織の中でどのような使い方ができるのか」。混乱があるのではないかという指摘です。実は今回の財源論と、その確保された財源をどのように誰が使うかというのは、この会で議論するかどうかは難しいところではありますが、かなり連携した議論をしていかないと難しいと思います。逆に言うと、財源の問題をこの検討会で議論しながら、併せて人口が減少した小さなまちで観光政策を担う主体がバラバラな状態であるというのは良いことではないと思います。この機会に一本化し、新しい財源を集約的に機能的に使える体制づくりを一緒にやるという議論が併せて出されることが、この財源の検討会の議論をスムーズに進めていくことにも繋がっていくのかなと感じました。

### 下村会長

ケビン委員からの3つ目の指摘で、そういうもののトップがマーケットを理解できている人でないといけないのではという話がありましたが、私も観光地経営計画の頃から関わってきて、組織の問題がとても難しいとよく伺っています。あまり正面で議論すると時間がなくなるというか、非常に大きな課題で別に議論して頂かないといけない問題だと思います。

ここでは少なくとも財源の方から仕組みを議論するというにさせて頂きたいと思います。色々な意見が出てきていくので、その点も事務局にも理解して頂ければと思います。

### 杉山委員

資料3で今後の取組み①②これは観光地経営計画の中で決められたことだが、今後の方向性だけではなかなか進みにくく、なかなか皆さんに理解して頂くのは難しいだろうと思います。約50項目で挙がっている今後の方向性について、いつ誰がどのように進めていくのかということや、何年位までにということ等明確にして頂かないと、今後進めていくのに理解を頂けないのではないかとすることに危惧を持っています。

もう一つ、温暖化対策をどう作っていくのかというのは、これと並行になるかどうか知りませんが、莫大な経費・費用になると思います。そういうことも考えていかないと、観光情報とかも吹っ飛んでしまい、雪もなくなればどうなるのかそれも少し考えた方が良くと思います。

### 下村会長

割と抽象的な議論から具体的な意見まで出ましたが、今日の話を含めて、この委員会ですることは限られており、それはこれからの白馬村がどのように進んでいかれるかということと、まったく遊離したものではなく、かなり重要な議論をさせて頂くだらうと理解しています。ただ、ここで総合計画を立てるわけではないし、交流を前提として白馬村でより豊かに暮らしていくために財源をどう確保し、どのように使っていこうかという流れを議論していくことだと思います。村としては併せてすべて議論すべきだろうと思うので、持ち帰って頂ければと思います。

「きっちり」というご意見がしきりに出ていますが、状況はどんどん変わっています。先程温暖化の話がありましたが、私はアセスメントにも係わっており、整備後の敷地が崩れるかどうかの検討に際して水の動きをシミュレーションしますが、気象の状況も変わってきていますので、インプットの数

字や基本的な数式が従来とは違ってきていることも想定します。このように状況は変わります。あくまで計画であり、ある程度想定しながらやっていくとか、その中で最善の事をしていくのが計画であるので、資料 3 についてもこれからもう少し具体的に仕分けの議論をしながら、基金としてどれ位の額が必要か、細部の妥当性を検討しながら議論をしていくことになると思います。具体的にご指摘を頂きながら、適正で現実的な成果に向けて進めていきたいと思っています。

#### ケビン委員

パブリックに出される前に、専門の関係事業者毎に議論できないでしょうか。宿泊、索道、交通、飲食等それぞれに悩みがあると思うので、議論する場を作っていただくとは可能でしょうか。皆、色々悩みもあり、宿泊業の悩みは交通業と全然違うと思いますし、それぞれをまとめると良いと思います。

#### 下村会長

事業者の方から意見を伺う機会は設けることにしていますが、それを一回でやるとか少し分けるとか議論の進め方は検討して頂きたいと思っています。

今日はもう少し議論を進めようと思っていましたが、要望書等が出てきたり、状況を共有する必要があったので、前回をもう一度振り返る形の議論させて頂きました。堂々巡りしていても仕方がないので、視点をはっきりさせつつ少しずつ議論を進め、白馬に色々な議論をする機会を作って頂く、その引き金になれば有難いと思いますので、これからもご協力を頂きたいと思っています。

#### 事務局藤本副村長

要望書等の提出があり拙速に進めるのはどうかという意見もあり、この委員会は財源を考える会であるが、その他にも検討すべき課題等についてご指摘がありました。第 1 回の会議でも会長から 12 月までというのは野心的だと指摘もあり、当初のスケジュールで進めるのが難しいと感じており、次回開催は 8 月 21 日ということにしていますが、全体のスケジュールを後ろに延ばして慎重に議論していくことも含めて、再度会長とも相談の上、日程を調整してご連絡させて頂きます。

#### 下村会長

議事の進行を終了とします。